

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		福岡医療福祉大学		設置者名		学校法人 都築俊英学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成20年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
人間社会福祉学部	総合福祉学科	200人	高一種免(福祉)	平成21年度	—	—	—	—
入学定員合計		200人	合計		—	—	—	—
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成21年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成21年11月26日（木）

実地視察大学：福岡医療福祉大学

実地視察委員：大坪治彦委員、壺内明委員、野村新委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・ 1学部1学科で教員養成を行っている。
- ・ 教員養成に関する教育課程、教員組織等についての基準を満たしているが、改善することが必要な点が見られる。

<講評>

- ・ 平成18年7月の中央教育審議会答申を踏まえて、適切な教職課程の運営を行うこと。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・ 養成しようとするのは、福祉と共生の理論と実践を文化として広く深く社会に浸透させ、その発展と普及、定着を図る教育の専門職としての人材である。
- ・ 具体的な養成したい教師像については、各教員ごとに異なっており、大学全体としての教員養成に対する明確な意識を有していない。

<講評>

- ・ 全学的に教員養成に対する理念・構想を意識し、それを具体化するため、教職課程の一部の組織だけではなく、全学的に組織体制、教育課程や教員組織を充実してほしい。
- ・ 「他者を支援し、個をのばす」という大学の理念と、高等学校教諭福祉の免許状を取得することの意義を兼ねた教員養成の理念を掲げてほしい。
- ・ 教職課程の非常勤講師においても、大学の理念に対する理解を深めるようにしてほしい。
- ・ 絶えず教員間で大学の理念及び授業内容についての議論を重ね、リニューアルされたものを学生には示してほしい。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<状況>

- ・ 教職に関する科目の履修時期について、一部の科目が科目趣旨と整合していない。
- ・ 大学全体としての体系付けたカリキュラム構築のため必要な、履修モデルが作られていない。
- ・ 教員によって、成績評価の基準が異なっている。
- ・ 法令上定められている「含めることが必要な事項」が、授業科目によっては明確に示されていないシラバスが見られる。

<講評>

- ・教職課程科目の体系的な履修のための全学的な履修モデルを作成すること。
- ・教職の授業として、授業に出席するのは当然のことであるため、出席するのみで加点するような評価方法は見直すこと。
- ・具体的な各授業での到達目標を設定し、達成したかを確認するための基準を明確に示すこと。
- ・例えば授業科目「総合演習」など、法令で定める事項及び科目の趣旨が各授業科目内容と合致しているかどうかも含めて、授業科目内容を全体的に見直すこと。
- ・学生が板書を行うだけで終わる授業内容ではなく、例えば授業科目「教育方法論」に福祉の内容を絡めて扱うなどして、学生自身が授業内容をそれぞれ考えるような授業を展開してほしい。
- ・教職に対する魅力を一年次から伝えるなど、教職課程の履修における入口の工夫を行ってほしい。
- ・特別支援教育に関する内容を授業科目で扱うよう推奨してほしい。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・実習校の確保は、出身校による実習（母校実習）である。
- ・受講資格は、主に授業科目「教育職の研究」「教育原理」「教育心理学（教職）」「福祉科教育法」を修得していることである。

<講評>

- ・教育実習については、大学がその主体性と責任を持って、企画・実施・評価にあたるとともに、事前指導では学生に実習に関する内容を理解しておくように指導し、事後指導では実習記録や報告書に大学と学生が目を通すなど、事前及び事後指導における改善・充実を図ってほしい。
- ・教職課程担当教員が、実習校や教育委員会との連携協力を図るなど、実習の工夫を図って欲しい。合わせて大学として、実習に係る担当教員の対応時間の確保を行うなど、当該教員を援助する体制・取組を工夫してほしい。
- ・付属校での実習など、母校実習を避けるような取組を全学的に行ってほしい。
- ・特別活動や教育方法を習得した上で、実習に参加させるようにしてほしい。また、授業科目以外の部分で学生の適格性を判断し、実習参加の可否を決定してほしい。
- ・教育実習の評価方法に、教科指導に関する事項も含めてほしい。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・自主的に計画・実行（ボランティアの交渉、連絡等）をしている。
- ・教職専任教員による、国公立青少年教育振興（青少年自然の家等）や地方公共団体主催の福祉・教育プログラムへのボランティア参加・児童養護施設等の子ども達の自然教育（体験学習）プログラムへのボランティア参加等の取組みを行っている。

<講評>

- ・ボランティア活動を、カリキュラムの中に位置づけてほしい。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・教職課程委員会として①教員免許取得希望者の受講許可の審査②未修得単位の履修指導（体調不良（病気）等による臨時的対応（処置）を含む）③教育実習先の調整（病気等による途中棄権した場合の再実習先の調整・確保等を含む）を行っている。
- ・履修指導については、教職専任教員研究室や事務窓口における個別相談の他、説明会やガイダンスにおいて実施している。

<講評>

- ・個々の授業や取組を体系的にした履修計画を示した上で、学生に対する履修指導を行うこと。
- ・教職科目の開設については、学科の専門科目の開設時間帯との編成を整理するなど、学生に履修を困難にしている状況を改善すること。
- ・1年次初期の段階から、教職の意義等に関する内容の指導を行ってほしい。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・「教職課程委員会」（学部長、教務部長、学科長（コース長）教職課程主任、教職課程担当者）を中心にカリキュラムの検討及び教員の授業の質的向上、教職課程の実施にともなう様々な問題に対応している。

<講評>

- ・平成18年7月の中央教育審議会答申を踏まえた「全学的な組織」を構築すること。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<状況>

- ・教職に関する科目の図書等の冊数は、2,616冊となっている。
- ・コンピュータ等は、190台備えられている。

<講評>

- ・教員養成に力を入れていることが分かるように、施設・設備を全体的に整備すること。例えば図書館であれば、雑誌を増加させるなど、学生の利用を増加させるような整備を図ってほしい。
- ・扱う図書が専門的となっており、教職に関する図書等が少ないため、学習指導要領などの教育実践に関する図書の冊数を増加するなど、充実を図ってほしい。
- ・大学として養成したい教師像に合わせた集書計画を立ててほしい。
- ・情報機器の充実を図ること。